

1. 主屋 立て起こし

主屋の土間台所部と座敷部は全体に西側に傾斜してしまっている。一番大きなところで、内法高さ間で20ミリほどある状態であった。このため傾斜を直すべく西側よりジャッキをかけて建物を東へ押した。土間台所部は3通りに桁行の大梁があり、この梁木口を押すことで、比較的容易に立て起こしが出来た。しかし問題は、再び傾斜しないようにすることで、柱足元での補強等を検討している。



2. 主屋 台所大梁の補修

主屋土間にかかる長さ4間半の大梁は、梁尻が蟻害と雨漏りによる腐朽で大きく傷んでいた。腐朽部を取り去ると、心と表面だけを残す程であった。幸い、大梁のこの部分は母屋1本の荷重を受けていただけであったため、人工木材で破損部を整えた後、上側に相応の断面をもった材を矧ぎ付け、矧材でも荷重を支えられるように補修した。



3. 主屋 新材加工

主屋座敷部と大広間を繋ぐ畳廊下は、特に座敷部北東角の“木地の間”と取り合うあたりで、雨漏りによる破損が大きかった。そのため、柱・繋ぎ梁、大引などの取り替えを始め、桁・母屋なども継木修理が必要であった。

写真は、畳廊下東側の1間半の大引の新材加工(取替材)を行っているところ。

